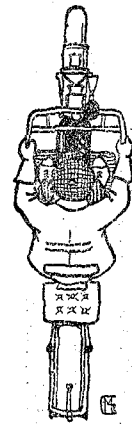


通信

伯林たより

神奈川縣技師 平川保一



七月二十一日暫く住み慣れた巴里を離れ、白耳義、和蘭を経て二十五日獨逸の首都、伯林に着いた。白耳義では首都ブラッセル、其の郊外ナボレオン没落の古戰場として名

高いワートルロー、良港アントワープ、和蘭では平和宮で名高い、ハートグ及水都アムステルダム等を見物した。白耳義、和蘭は小國ながら商工業の盛んなこと、都會の美しいこと、道路の立派なこと等日本より勝れた點が多い。白耳義は佛蘭西と同様に貨幣爲替が暴落してゐるのは氣の毒で

あつたが、お隣りの和蘭は歐洲大戰に参加せず戦後の疲弊がないだけに物價の高いのには驚いた。

獨逸では一週間ばかり國內地方を旅行した外一ヶ月ばかり伯林に滞在した。過ぐる大戰の結果、戦敗國としての打撃の多いことは見られるが、戦前に成し遂げた偉大な事業の跡、戦後着々回復しつつある總てのものに對する彼等の努力は共に稱讚に値する。伯林の街は倫敦や巴里と比較して著しく静かだと感じた、それは戦後の打撃に依る不景氣

の爲めでもあらうが、倫敦や巴里のやうに華やかな素質を
持たぬからであらう、然し落ち付いてゐる感じが好い、建

ことは佛蘭西で感心したが、獨逸もなかく劣らぬ、否、
所に依つては佛蘭西以上であらう。

物はそんなに大きくないが、變化に富んだ構造を持ち各階

獨逸都會の道路の特徴は、中央に立派な歩道（多く二列

の窓に多くのバルコニー
を突き出し是れに美しい

の街路樹を植え真中を遊
歩道とし所に依つては休
憩用の椅子が置いてある）

草花を一杯に培養してゐ

があつて直ぐそれに接し

るのは綺麗である、道路

て電車が通り（一般車馬

もまた相當に好く、巴里

道より全然區別して）其

のエトアールを中心とす

の兩側が一般の車馬道に

るシャンゼリゼーやブー

なつてゐて人家側には更

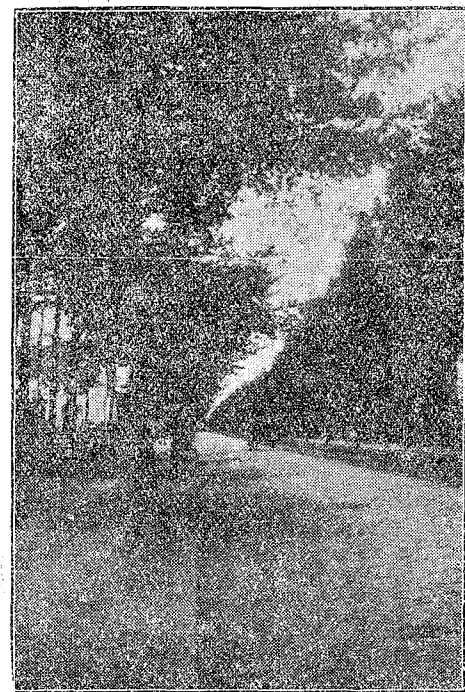
ロン街などのやうに、壯

に歩道がある、それに歩

麗さはないが此處にもウ

道にはバリーのやうにカ

ンター、デン、リンデン



(獨逸郡部道路)

街から、ブランデンブルグ門を抜け國會議事堂前や、普佛

フェーの椅子など張り出して置いてない。斯様になつてゐ

戦捷記念塔や、チーヤガルテンに入つて、グロス、ステル

るから交通は實に整然としてゐる、即ち電車と自動車とは

ンを中心とする大道路などなかくに立派である。實際日

區別され歩道でも停滯して遊ぶ人と急いで通る人は混雜し

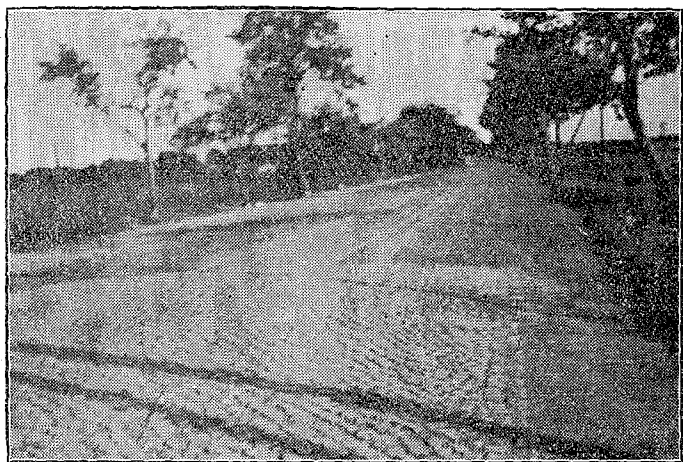
本でも早く理想的都市を實現して欲しい、街路樹の立派な

ないで済む、電車に乗る人が自動車などに心配する必要が

ない、それに街路の諸所にある廣場には草花を公園のやう

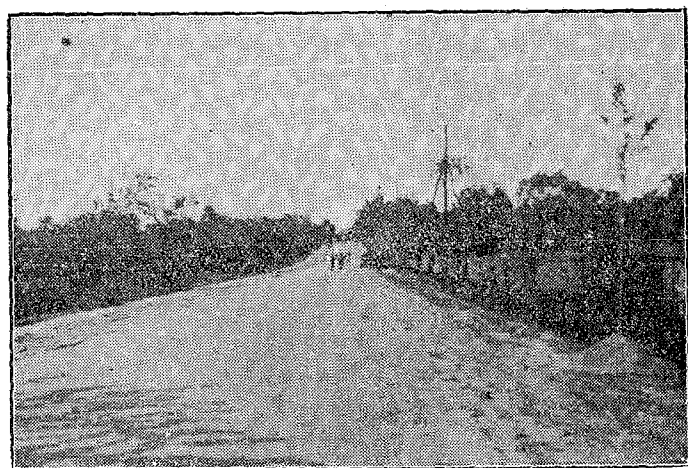
に美しく
培養して
ゐるのも
特徴であ
る大きな
ブラスツ
や公園な
どに紀念
碑や銅像
を置いて
あるのは
倫敦巴里
に似て居
るが、此
の國のは

美術的價値は兎も角、總てが嚴しく、帝王とか戦捷紀念、其



(装舗ムダガマータは部俊ニイタス、ニイラクは部前)路道部郡逸獨

の他征服的の意味を現してゐるものが多く、如何に軍國主



(路道部郡逸獨)

義であつた
かを頷かさ
れる然しビ
スマークと
かゲエーテ
とか國家に
功勞のあつ
た偉人、政
治家、詩人
等の銅像も
勿論相當に
多いのであ
る。

路面舗装
に就ては大

抵の主要道路はロックアスファルトを用ひた所謂スタンプ

アスファルトで、其の他はロツクアスファルトを原料とし

たグリース

アスファ

ルトと云

ふものを

使用して

ゐる、こ

のスタン

ブアスフ

アルトと

云ふのは

名前は違

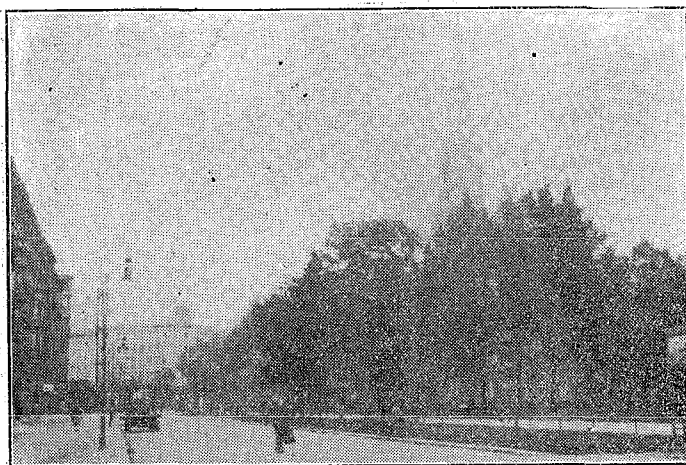
ふが、佛

蘭西、白

耳義、和

蘭、瑞西

伊太利等歐洲大陸何處でも使つてゐるが、獨逸が一番盛ん



(路 道 内 市 林 伯)

なやうだ、工法は極めて簡單だけれど成績はなかく、好い

やうである

其の原因は

ロツクアス

ファルトの

有する特徴

にあるらし

い。此のロ

ツクアスフ

アルトを原

料とする鋪

装の外にと

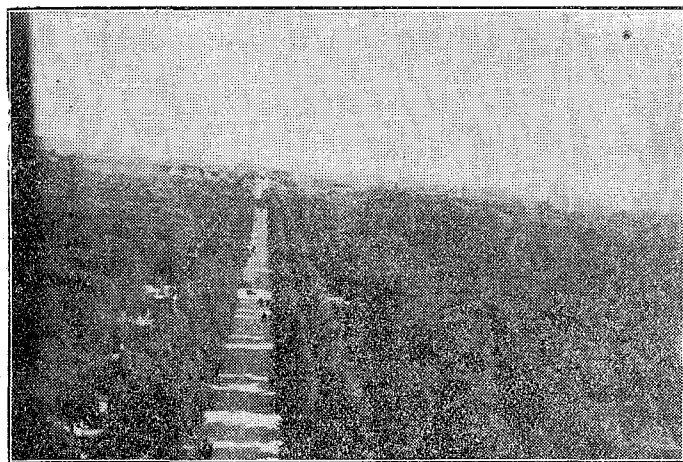
リニダツド

アスファル

トやメキシ

コ、アスフ

アルト等を用ひた、シートアスファルト、アスファルトコ



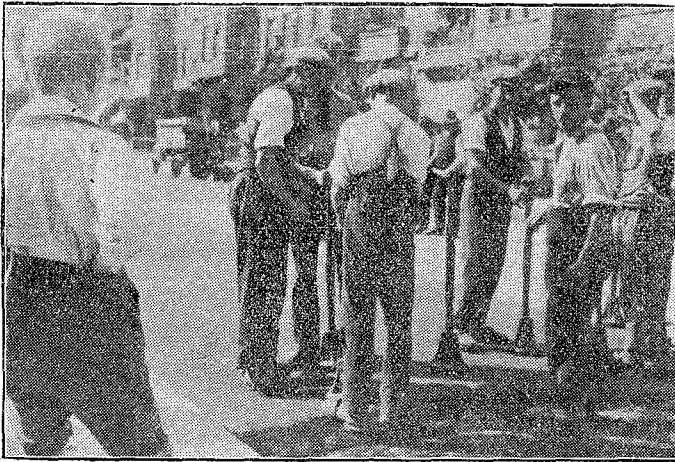
(一レアスゲーナ内ンテーダヤーチ)路道林伯

シンクリート、アスファルト、マカダム、或はコルターを用ひ
 たターコ
 ンクリー
 ト、ター
 マカダム
 等も相當
 に用ひら
 れて居る
 が是等は
 小都市の
 道路が郊
 外道路に
 多いやう
 である、
 石塊鋪裝
 も相當に

あるが是は市街地は漸次に減じて（市街地も停車場港附近



(一の況狀事工裝鋪トルアフスアプンタス内市林伯)



(二の況狀事工裝鋪トルアフスアプンタス路道内市林伯)

郊外道路に
 は尙ほ相當
 に用ひられ
 て居る、尤
 も獨逸の石
 塊は佛蘭西
 のやうに大
 きいものは
 少く（市街
 地中の前述
 の特殊道路
 のものは矢
 張り大形で
 ある）所謂
 クライン、

等のやうに重い荷物の多く通る所は依然石塊鋪裝が多い）

スタインと稱する三寸角位の小さい立方形のものが多い、

自動車道路としては此方が遙に滑かで好いやうである。木

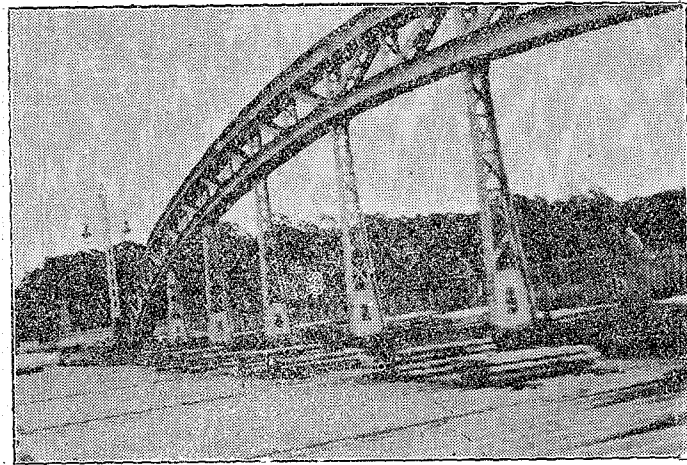
塊舗装は
獨逸では
非常に少
く橋梁の
上などに
多少使は
れてゐる
に過ぎぬ
煉瓦舗装
も田舎道
に多少見
たが是れ
は舊時の
もので現
在は殆ん

ど使はない。獨逸の都會の歩道舗装の特徴はモザイクで



(三の況狀事工裝舗トルアフスアブツタス内市林伯)

ある。モザイク舗装に就ては巴里よりの通信で述べて置



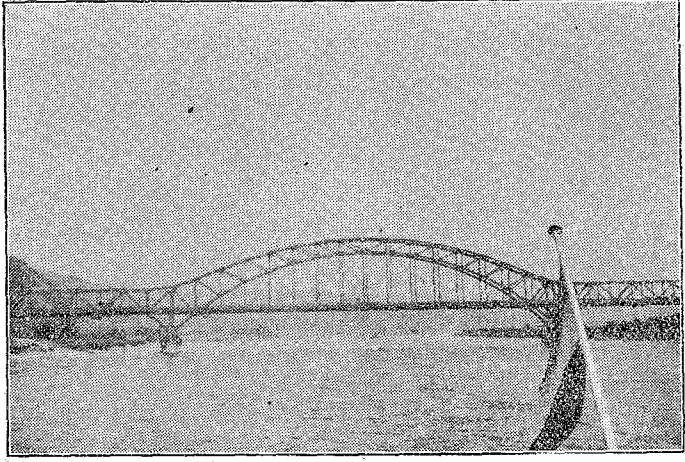
(況狀の事工裝舗面路上梁橋部郡逸獨)

いたが、伯
林では車道
には少ない
が歩道は殆
んど至る所
に使つてゐ
る歩道の中
央三尺乃至
六尺位の幅
はコンクリ
ート又は石
板で其の兩
側は多くモ
ザイクで
ある(勿論

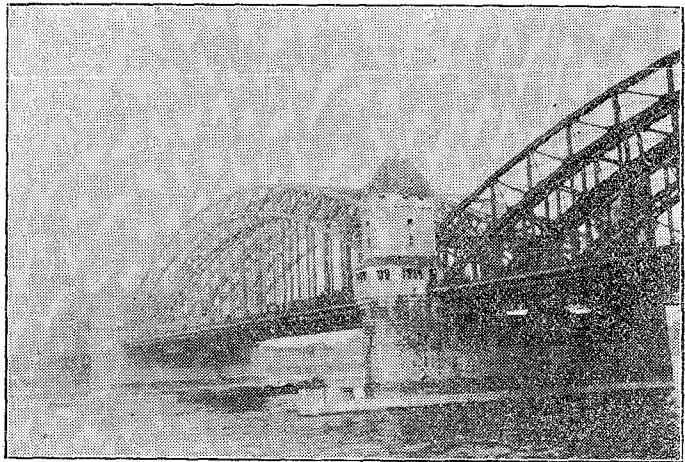
全幅モザイクの所もある)、是は極めて小さな、二寸位

の日本の間知石形の石片を砂層の中に一つ一つ敲き込んだ
 もので
 そしてそ
 れが處に
 依つては
 白色と黒
 色とを取
 交せて種
 々の綺麗
 な模様を
 作つて居
 る、この
 モザイク
 ク舗装は
 耐久力や
 工費の點

は疑問で、殊に日本のやうに下駄で歩き且つ雨の強い所で



(一の梁橋筋河ンイラ逸獨)



(二の梁橋筋河ンイラ逸獨)

道路歩道に接して人家の前に立派な庭園を作つて居るのが

は考へ物だが獨逸では石材が安く、(古材の利用する點もあ

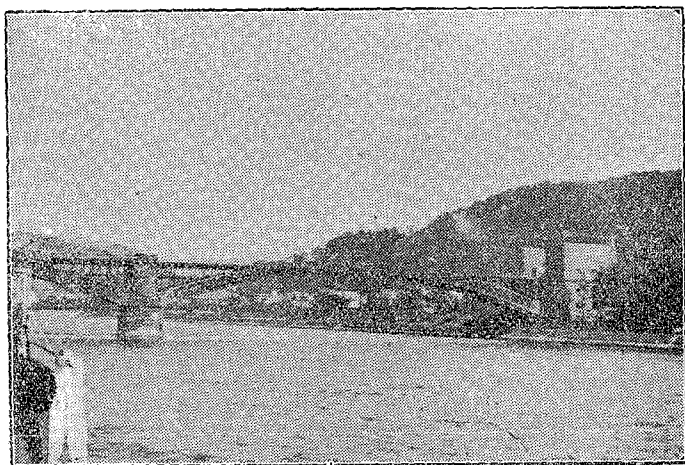
るだらう)
 且つ美術的
 の意味から
 斯様に使つ
 てゐるやう
 に思れる、
 尙ほ獨逸で
 は歩車道境
 界のカーブ
 ストーンは
 大きくて立
 派なものを
 使つてゐる
 のが目立つ
 又伯林には

方々にあり、それが長く連続してゐるので一見歩道の一部

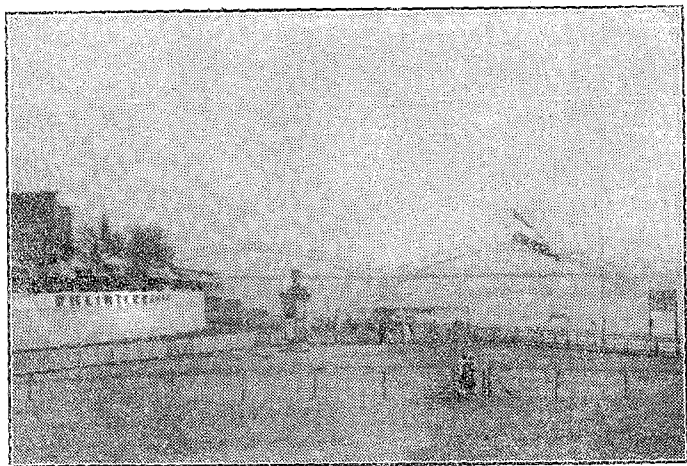
しない。伯林の交通機關は倫敦や、巴里に較べて餘り著し

のやうに見えるが各人家に屬してゐるやうである。

伯林には市を貫流する大きな河がないから橋梁の立派なものはない。彫刻などの裝飾を有する橋が多少あるが、小さいので餘り見榮えが



(三)の梁橋筋河ンイヲ逸獨

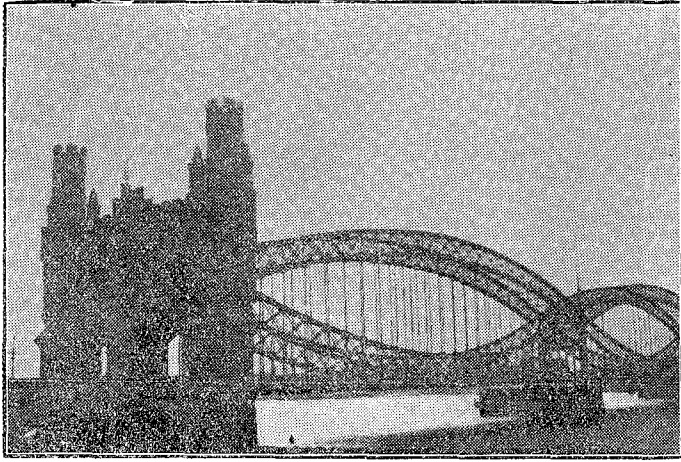


(四)の梁橋筋河ンイヲ逸獨

い特徴は持つて居らぬ路面電車、乗合自動車、高速度(地下及高架)電車等一樣に發達してゐる。伯林の高架線では、下の方は、下を立派な遊歩道としてゐることである。

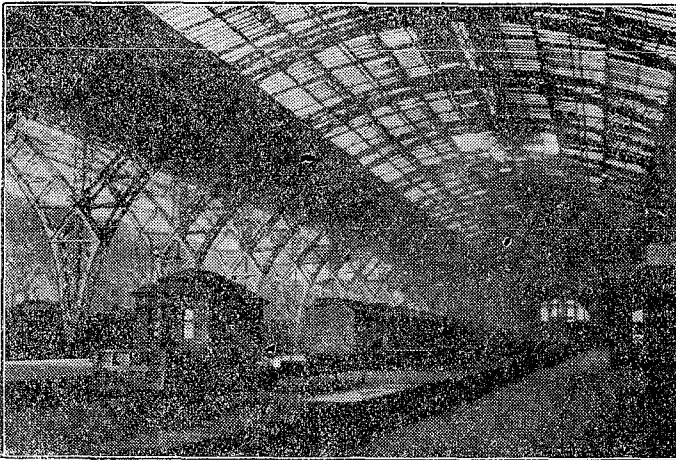
ある、高架線の床はソリッド、フロアであるから餘りや

かましくない。タクシーも相當にあるが、巴里などとは比較になら
 ない、不景氣のためもある
 かも知れぬが、何れも餘り
 混雜せぬ是は巴里
 や倫敦に及ばぬ迄も高速度
 電車が、相當に發達してゐる
 ため、日本の大都市も一日も早く地下や高架の高速度



(梁橋ケルアンハ逸獨)

交通機關を完成せしむる必要がある。伯林の交通整理は比

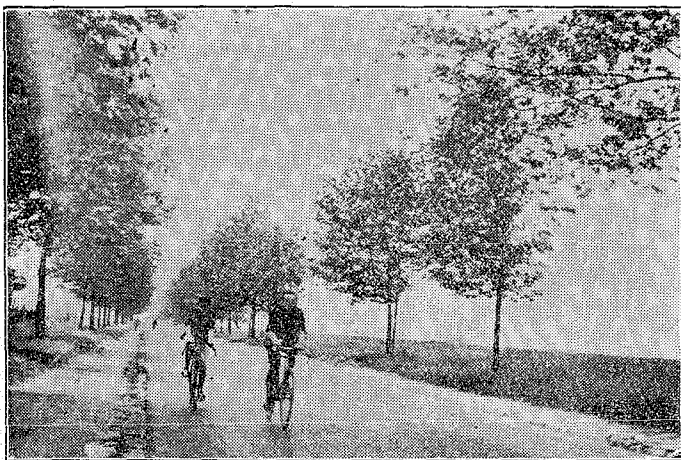


(ホツチプイラの場車停會都逸獨)

較的整然としてゐる、それは自動車の数が少ないため道路が比較的
 交通整理に都合よく出來てゐるのと又交通
 整理の實行を非常に厳しくやつて
 るため

横断にも、なか／＼やかましく云ふ、又自動車が方向變換

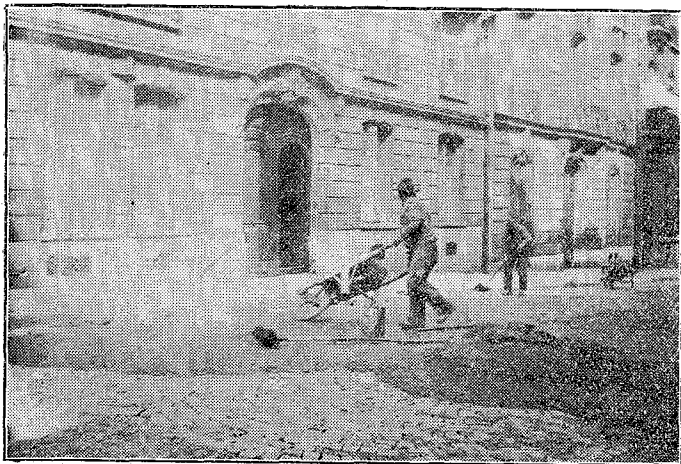
に際し運
轉手臺の
横に腕木
を附けこ
れを機械
的に方向
を示しな
がら上下
するやう
にし、他
の國のや
うに運轉
手が、手
を出して
合圖する



(照參號前)路 道 部 郡 西 蘭 佛

ことを許さぬ。(尤も機械的設備を持たぬ自動車は運轉手が

いち／＼杓子やうのものを横に出して信號することになつ



(様模事工裝鋪クツイザモ道車市里巴)

て居り甚だ
滑稽に見え
る)伯林に
は立派な交
通博物館と
云ふのがあ
る、道路、
橋梁、鐵道
港灣、運河
等凡有交通
機關、建造
物に關する
模型があつ
て、殊に橋
梁に關する

模型などは巴里で見た以上の立派なものが澤山あつた、斯

様な博物館を日本にも持ちたいことを再度痛切に感じた。

郡部道路は矢張り十分に見ることは出来なかつたけれど一日ベルリン市の周圍を管轄するブランデンブルグ州廳の自動車に案内されて、田舎道路を走つたが、なかく立派なものである。道路の全幅は大抵十米で、其のうち中央約四米半を舗裝し、舗裝の種類は前にも述べた通り、石塊、アスファルト、ター混凝土アスファルト混凝土、ターマカダムなど色々ある、セメント混凝土の舗裝は、まだ殆んどやつてゐない。(尤も獨逸でも南方ミュンヘン地方では近時相當に混凝土舗裝が用ひられてゐるらしい)郡部道路も並木は非常に綺麗で、植えつけてない所は殆んどないと云つて好い位である、尙ほ郡部道路について感じたことは道路の勾配、カーブ鐵道との交叉などを標示してゐるのは勿論のこと起點からの追加距離を鐵道式に〇、一キロメートル毎に刻んだ標石を据えて居ること、人止柵(寧ろ自動車止め柵)を好く設けて居ること及並木の根本に石塊を置いて自動車の突破を防いで居ることなどである、この日に走つ

た全距離約二百五十キロメートル許りであつたが、中央だけは(自動車の往復幅としては少し狭いが)ダストレスのソリッド、マチリアルで舗裝してあつただけで、殆んど全線は前述の通りであつた、是等は多く戦前にやつたもので如何に獨逸が道路に力を用ひたかが解る、戦後は經濟の關係で道路改良に餘り力を用ふる事が出来ないで居るが、それでも近時自動車の發達と經濟狀態の復活とに連れて、次第に舗裝工事をなし、其の面積、延長等を擴張してゐるやうである。殊に簡易舗裝として、アスファルト又はターマカダムが非常に盛んに施工されつゝあるのを見た、そして戦前は中央政府が相當に統一補助して道路改良に盡して居たが、戦後は全然各州に委せて地方々々でそれ々の經濟狀態に應じて、改良して居るらしい。

獨逸國の自動車數は米國は例外として、英、佛に比べて遙かに少い(大戰前はそんなでもなかつたらうが戦後經濟狀態の影響で)殊に伯林に於ける自動車は倫敦や巴里に較べて非常に少いので淋しい位である、それでも千九百三十

四年に於ける獨逸全體の自動車の数、約二十萬臺と言ふから日本などは桁違ひである。私はドレスデン、ライプ

チツヒ、フランクフルト（アムマイン）ケルン、デュッセルドルフ、ハムブルグと僅か一週間で獨逸國內を飛脚式に旅行したが、獨逸地方都會の何れも相當大きくて立派なところによつて獨逸國全體の堅實なる發達を首肯することが出来る、戦後の不景氣の模様は見られるが、何れも底力があるやうである、殊にライン河筋は獨逸の樂土である、マインツからケルン迄の一日のライン河下りは遠い旅情を慰むるに十分であつたと共に、獨逸の發展實力を窺ひ得ること尠くなかつた、兩岸の數多い古城、日あたりの好い斜面に少しの空地もなく綺麗に培養した葡萄酒、また民謡に依つて名高いローレライの岩を中心に附近の相迫つた山岳或は兩岸の美しい都會、林立せる煙突から絶えず活氣ある煙を中天に吐いてる工場、河を賑かに上下する大小の汽船、兩岸を並行して走つてゐる往復の汽車、或は自動車、山間の景色と相映じて虹の様に架つてゐる幾多の橋梁等を眺めて

は詩人、文學者ならぬ自分も心からこの風光に浸り得ることを喜んだ。そして獨逸の文化を謳歌した。

ライン河筋の橋梁は殆んどタイドアーチで河が廣くてスパンが長いので如何にも雄大である、殊に兩端の石造門（處に依つては中部にもあるが）は巴里のそのやうな美術的價値は兎も角として其の偉大なるには驚く宛ら城の如くライン沿岸の古城と相映じてゐる、是等は實用上から言へば不必要だと云へばそれまでだが、日本では眞似の出来ぬことであらう。

この外に至る處、停車場の建物の尠大なこと、ライプツヒの世界的メッセ（市）、デュッセルドルフの衛生博覽會エッセンの鐵工場、ハムブルグの港など往時の獨逸の活動を偲ぶと共に將に再び商工業を以て勃興せんとする獨逸の努力を窺ふに十分であつた、そして獨逸人の偉大なる體格横溢せる活氣、緊張せる意氣、組織的に緻密なる頭腦、質素にして忍耐強く、勤勉なる性格を見ては吾人の學ぶべき點の多いことを痛切に感じた。